

令和5年度 第2回 総合教育会議 会議録

開催日時	令和5年11月17日(金) 午後1時25分から午後3時05分				
開催場所	本庁舎 602・603会議室				
会議出席状況	市長	相馬 憲一	出席		
	教育長	篠山 充	出席		
	教育委員	深澤 道昭	出席	川上 聖子	出席
		小林 朋子	欠席	森 泉	出席
		渡邊 英憲	出席		
	事務局	教育部長	君島 敬	教育総務課長	羽石 剛
		学校教育課長	小室 和徳	生涯学習課長	岡 一弘
		文化振興課長	墨谷 薫		
		教育総務課 (事務局)	遠山 多恵	教育総務課 (事務局)	須藤 奨

次 第

- |                        |         |
|------------------------|---------|
| 1 開 会                  | 午後1時25分 |
| 2 あいさつ                 | 市 長     |
| 3 議 題                  |         |
| ① ICT活用の現状と課題について      |         |
| ②本市の学校施設における法12条点検について |         |
| 4 その他                  |         |
| 5 閉 会                  | 午後3時05分 |
| 6 会議要旨                 | 次のとおり   |





尾畑企画監もおっしゃるように、学校間格差は間違いなく残っており、先生ひとりひとりの違いも大きいかと思いますが、個人的にソフトや問題を作るなど素晴らしい取り組みもあります。各中学校区内で先生方の交流があることは把握していますが、広く大田原市全体で知見が共有されるような機会はあるのでしょうか。

○市長

ありがとうございます。ご質問が2点ありました。

1点目は学校間の格差、これをどのように考えて格差をなくしていくのかということ。

2点目は、学校の先生がアプリを活用して独自の教材を作る等していますが、それらを共有できる機会があるとよいのではないかとのことでした。

○尾畑企画監

学校間格差があるのは事実ですが、大田原市ではただアプリを使ってドリルをさせるような使い方ではなく、子どもたちのモチベーションを高められるような使い方をしている先生の割合が多いです。

何年もかかるとは思いますが、市教委には教育長を中心にそうした使い方を広めていただきたい。

○深澤委員

I C T開始3年目ということでどのように進んでいくのかと思っていましたが、しっかりと前に進んでいると確認できました。

大田原市においてはI C Tがよく利用されており、また、それに対する指導もしっかりされていて、学校間格差をどのように解消するかを聞こうと思っていましたが、今答えをいただきました。大きな課題ですが時間をかけて指導していただければと思います。

○渡邊委員

私は子どもが小学校と中学校にいる立場での感想となります。

これまで小規模校が大規模校に勝ることはなかったと思っていたのですが、I C Tの導入によって小規模校が有利という状況が生まれています。

大田原市はあまりインフラの状況はよくありませんが、I C Tを活用して能力のある子たちを育てることで市全体が盛り上がる必要だと思っています。私がそうですが、山の中にいながらオンラインで海外と商取引を行う時代で、それができないと仕事にならなくなってきています。そういうことができる人材を育成しなければいけないと思います。

最近の子たちはデジタルネイティブと言われていますが、実はスマホネイティブで、消費者になるだけで自ら収入を得る側になれる人が少ないという話も聞きます。

普段からデジタル教材を使って思考することは成績が上がること以上の意義があるので、大田原市の取り組みが全国的に認められるくらい頑張っていたいただきたいと思います。

補足として、短期間で成績が向上することはないというのは皆さまご承知かと思いますが、ICTの活用に全力で取り組んで短期間で成績を向上させた先生もおります。その先生は毎日1校時分の解説動画を作成してアップしています。それぐらい必死に活用すれば短期間で学力は上がるということもありますので、そういった知見を共有していただいて、パワーポイントとして使うだけでなく、指導を頑張っていたいただきたいと思います。

○市長

アプリや教材を先生が独自で作られて成績もよくなってきたということですが、よい取り組みを普及させて全体のレベルを上げていくような事例発表などをできればいいのかなと思います。

先生の熱意によって子どもたちのレベルアップにつながるのであれば、最初は真似でもいいので取り組んでいければいいのかなと思います。

○川上委員

感想になりますが、慣れる段階から使える段階になり、今では応用段階に入っていて素晴らしいと思います。

先生方の慣れとか、使いこなせているかということもあるかと思いますが、基本的に教員が子どもたちに教えなければならないという枠組みに入ってしまうと、先生方も使いたくなくなってしまうと思います。子どもたちに教わるくらいのつもりで先生が真摯に子どもたちの素晴らしさを認めてあげると子どもたちはもっともっと成長すると思います。先生方が何でもできなければいけないという時代ではなく、子どもたちに教わりながら先生方も成長していく、そういう立場になって取り組んでいかないと成長していけないかと思っています。

先生方は大変かと思いますが、頑張っていたいただきたいと思います。

○市長

ほかにございますでしょうか。

尾畑企画監、ありがとうございました。

それでは2つ目の議題「本市の学校施設における法12条点検について」にうつります。担当の黒崎係長、よろしく願いいたします。

○黒崎

(説明)

○市長

事務局の説明が終わりました。

只今の説明につきまして、皆様からご感想、ご意見、ご質問等がありますか。

○川上委員

とても素晴らしい取り組みだと思います。最後のまとめで「これからは管理の時代」とありましたが、つくづくそう思っていて、駄目になったら新しいものを導入するという今までの時代か

ら、一つのことを丁寧に大切にすることによってSDGsの考え方にも通ずると思います。

3年ごとに学校を点検して少しずつ補修していくことで、建物自体を長く使用できるでしょうし、経費の削減もできると思います。

市の職員が自らの手で改修していることに感謝します。

○深澤委員

感想になります。

いただいた資料に目を通しますと、細部にわたってしっかりと調査されているのだと理解しました。

事前に調査し対策を行えば子どもたちは安全に生活できますし、予算の抑制にもつながりよい取り組みだと思います。今後も手を抜くことなく活動を続けていただければと思います。

○渡邊委員

壊れてから買い替える、建て直すとなると非常にお金がかかりますので、まめに修繕したほうが安くあがるというのを私も身に染みて感じていますので、素晴らしい取り組みだと思います。

最後のほうで給食設備を具体的に見せていただき勉強になりました。ハサップが出てきて、食中毒が発生した場合、市の施設がハサップに適応した施設であったかというのが今後重要になってくるとは思います。そのあたりの予算というのはいかがでしょうか。

○市 長

ハサップ、これは宇宙食を作った衛生管理から始まっているものですが、しっかり取り組まなければいけません。

荷受けの段階で外気が入ってくる施設が多いので、それを改修するということが必要だとは思いますが、多額の費用を要しますので財政の仕組みを変えていかないとご要望にお応えできない状況です。

また、建物自体の築年数があまりにも経ちすぎているので、屋体そのものの劣化についても考えていかなければなりません。ハサップについては十分に理解しているつもりですのでよろしくお願いいたします。

○渡邊委員

ハサップ自体は考え方になります。たとえば衛生・非衛生の区切りとなる扉を作って、職員にハサップの考え方を徹底させることから始めてはどうでしょうか。お金をかけずに、今後備えて啓蒙活動を頑張っていただければと思います。

○市 長

わかりました。ハサップは食品衛生の基本中の基本になります。経費をかけなくてもできる対策は多くあると思いますので、実践していきたいと思います。

○黒 崎

作業同線や配置から考えていくようにいたします。

○森委員

施設管理担当の方が手作業でこういうことまでやっている

ことを把握しておりませんでした。

施設管理担当の方々は配管工事や電気工事もできる方が集まっているのですか。

○黒 崎

工事となると重機等が必要になってしまいますが、身近な電気・水道工具などを準備しており、できる範囲で実施しております。限られた人数で行っておりますので、業者にお願いすることもあります。

○市 長

ほかに質問や意見はないようですので、以上で議題を終わります。

皆様のおかげをもちまして、滞りなく議事が進行できました。今後も市政への変わらぬご理解ご協力をいただけますようお願い申し上げます。議長のご任をおろさせていただきます。誠にありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

○教育総務課長

貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。次に、次第4 その他 に移りますが、皆様から何かございますか。

○教育総務課長

それでは以上をもちまして、第2回総合教育会議を閉会いたします。お疲れさまでした。

閉会 （午後3時05分）